

昭和の南海地震体験談

氏名:上道 ちよ子(うえみち ちよこ)
生年月日:昭和5年6月8日
地震を体験した場所:広川町・自宅寝室
当時の家族状況:父、母、兄



<体験談文より>

昭和21年12月に発生した津波の体験です。

私が12～13歳の頃で、とても寒い朝でした。午前5時半頃、家がつぶれるのかと思うほど大きな地震があり、家族4人は慌てて外に出ました。外はあまりに寒かったので、家の前の道で焚き火をして10分程過ぎた頃、音もなく海水が足元に押し寄せてきたのです。父はとっさに「津波や！上の山に登ろう！」と言いましたが、道も無い裏山で、雑木の根元をつかんで登りました。しかし、一足ごとに水が追いかけてきました。5～6m位登った所で水が止まり、あたりが少し明るくなって、木の間から周りの様子が見えるようになり、20分程して海水が急に「ゴォー！」と音を立てて引き始めたのです。家の前の10～15m位の川幅の川底(深さ15m位)が見えるぐらい引き潮になり、20分程経つとまた海水が増えてきたのです。そんな繰り返し4～5回あり、引き潮の時、家ごと流されていく人の手や足の浮き沈みするのを見ましたが、引き潮が速いので、どうする事も出来ませんでした。

1時間半程で引き潮の状態も静かになり、流れも普通になって、すっかりあたりも明るくなって、山から下りてみると、家の棟に灯事道具が乗っていました。また家の中は柱と屋根だけで、家財道具は全部天皇(地区名)の波止場に流れ着いていましたが、現在のように防災放送やボランティアもなく、2日間は食べる物も無く、水だけで過ごしました。3日目から、母の実家からお米を持ってきてもらい助かりました。水で濡れた衣類は、母の実家で洗ってもらい、本当に嬉しかったです。

これが私の65年前の体験談です。このことを多くの人に伝えて、今後の防災に役立ててもらえたらと思います。

<その他>

- ・父が地震の後に津波が来るかも？と言ったので、家族全員起きて外にいた。町内放送もなく、誰にも聞いた様子はなかったが、父が地震＝津波を知っていたのかどうかは判らない。
- ・津波は来る時は静かに水が増え、引く時は凄い勢いで流れていく。音も大きい。
- ・自宅近くの波止場に流された人がほとんどで、近くの広場に安置され、火葬された。
- ・地区で33名が亡くなった。